長洲町立長洲小学校　校長便り　No.８１

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和5年3月20日(月)

独り言

６年生への私からのプレゼントとして、色紙を書いた。６年生36名、一人一人に思い出がある。文字を書く時間は6年生と向き合っているような感覚になり、楽しいものだ。全員に違う文章を書くので、私自身の修養の時間にもなる。

「後悔の消し方」という文章が好きだ。この文章を読んだ時、自分は今を良くするために、現在進行形で何かやっているかと考えてみた。胸を張ってこれをやっていると言えない自分がそこにいる。これまでの人生の中で、相当数の後悔をした。現在、教師として仕事をさせて頂く中で、後悔はしたくないと思い、経験則を基に真摯に子供達、保護者と向き合っているつもりだ。しかし、それでも思うようにいかないことがある。その時、この言葉を思い出すのだ。

「後悔を消すには今を良くすることが一番の近道」であることを。性格的によくよくすることも多いが、それでは前に進まない。今、目の前の事に懸命していくことが大切なのだ。

【独り言】「人を惹きつける魅力」

そう言えば小中学生の頃、「モテたい」、「チヤホヤされたい」とか、自分には無い魅力を求めて、周りの仲間にアピールをしていた覚えがある。これは小中学生によくあることだ。先ず「格好つける」こと、髪型をいじったり、流行りの服を着てみたりした。次は、「好きな女の子にちょっかいを出す。」少しでも近くにいたい、自分に関わってもらいたいという感情から、しなくていいことをわざわざするのだ。それは相手にとって迷惑で仕方がないことなのに、しつこくちょっかいを出すのだ。そして、人気のあるグループに入りたくて、その中の友達にちょっかいを出し、とうとう喧嘩になって先生から怒られる。これで人を惹きつける魅力が付くわけもなく、異性にモテる、チヤホヤされることはなかった。では、小学生の頃に女の子から「モテ」ていたのはどんな男の子なのか？　大抵が運動のできる男の子か面白いことができる男の子ではなかったか。足が速い、ドッジボールが強い、野球ができるなど、体育の授業や休み時間の校庭で活躍できる男の子がクラスの女子から視線を集め、「○○君ってスポーツ万能!!」という言葉が最高の褒め言葉だった気がする。面白いことやる男の子もクラスで目立つので、何となく支持を集めていた。そんな小学生の頃には、運動できる子の陰に隠れてしまっていた子もたくさんいたことも事実だ。そんな訳で、小学生の男の子で「勉強もできて体育もできる子」がかなりの人気者だった。

小学生という遊びの時代が終わり、中学生という思春期真っ只中になるとどうだろう。バスケ部のキャプテンとか、サッカー部のストライカーとか運動ができる男の子も相変わらずモテるけど、何となく「勉強のできる男の子」にシフトされてきた。小学生高学年から思春期に入り、女子は大人びるのが男子よりも早いので、中学に入って間も無く「さすがに運動ができるだけじゃダメだ」と思うようになる。男子もこの頃になると、女子にモテるのは「勉強できる奴」かもしれないと薄々気がつき始める。しかし、大抵の場合、男子はテスト前になると「俺今日2時間しか寝てねぇ、マジ眠みぃ～」と、まったく違った角度からアピールしてしまい、大した点数も取れず、女子から「勉強してその点数なの!?」と逆にイメージダウンを招く。私もそうだった。その結果、テスト前になると、一夜漬けで知識を詰め込んだのに「今回全然勉強してねぇ～」という、言い訳を周囲に振り撒き、逆効果を生む。

結論、人を惹きつけようと思って、その時の人気条件を始めても、あまり効果は上がらないということだ。だから、本当に人を惹きつける魅力は、「何ができる」とか「何をやっているか」よりも、それを楽しそうにやっている人だったり、それが面白くてしょうがない人だったり、ひたむきに努力する人なのではないだろうか。そして、併せて言いたいのが、挨拶や笑顔、時間を守る、ルールを守る、相手の気持ちに寄り添うことが出来る、多様な考えの他者と協働することが出来る、物事の真理を捉えて正しい判断と言動ができる、我がままを言わない、ケンカをしない…、等の基本的なことがしっかりできる人が、人を惹きつけるのだ。

シリーズ「自分を語る」#81

いよいよ、引継ぎの日を迎えました。この時の緊張感と言ったらありませんでしたね。県庁なんてあまり行くことではありません。私が記憶している限りでは、平成2年に教員採用の辞令を頂いた時くらいでしょうか、行けば緊張する場所としてしか考えていませんでした。県庁本館7階に国際課はあります（当時）。

心臓が口から出そうな感覚を覚えながら、国際課の扉をノックしました。何の返答もありません。恐る恐るドアを開けると、そこには業務に集中する県庁マンの姿がありました。一番手前に座っていた方に話しかけました。

「すみません。来年度からこちらでお世話になります、伊倉小学校の澤田と言います。今日は引継ぎに参りました。」

「あ～、澤田さん。よろしくお願い致します。前任者を呼んできますね。」

その方はすぐ近くの島（同じ業務を行う机の固まり）に向かって叫びました。「澤田さ～ん!」えっ、俺、澤田ですけど…て内心思いながら見ていると、澤田さんがやってきました。そうなんです、前任者も澤田さんだったのです。この澤田さんも学校からの知事部局出向者でした。当時、私達は課員から「澤田1号澤田2号」と呼ばれていたことを思い出します。澤田さんからの引継ぎが始まりました。引継ぎでは脳みそがパンクしそうでした。「必要な書類はこの中にあります。」と言われ中を見せて頂くと、分厚いファイルが幾つも並んでいました。その中の8冊分が私の業務に関するもののようです。一つ一つ丁寧に説明をして頂いたのですが、殆ど頭に入りません。引継ぎはその1回だけで、只々不安な中、学校で年度末の処理に忙殺されたことを覚えています。

4月1日初出勤。学校では就任式があるのですが、そんなセレモニー的なことは一切ありませんでした。業務開始時に、課長からの紹介と自己紹介を終えたら、すぐに業務開始でした。席に着くと分厚いファイルが8冊置いてあり、隣の課員がこう仰いました。

「業務についてはこれを読めば大体分かります。」

立ち眩みがしました。そして隣に座っていたのはスペイン語の通訳さんで、この方と多くの仕事をこなすことになっていきます。この日から、多くの言語が飛び交う国際課の中で、熊本弁で奮闘する私、運命は如何に!?　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）